



北九州市
ホームページ

主な内容

特集 1~2
パラスポーツを楽しもう

トピックス 3~4
●北九州市の
新型コロナワクチン情報
●北九州プレミアム夜景フェスを
開催 など

まちがいファイブ 5
情報ステーション 6~11
*最終ページは人口データと若松区の情報

特集 パラスポーツを楽しもう

パラスポーツから 広がる共生社会

「東京2020パラリンピック競技大会」から1年、
パラスポーツ(障害者スポーツ)を通して、まちに多様性、
共生社会への理解が広がっています。



北九州生まれ

「ふうせんバレーボール」

「重い障害のある人も一緒にできるスポーツがあったらいいな...」。平成元(1989)年、一人の障害のある人のつぶやきから生まれたふうせんバレーボールは、障害のある、なしにかかわらず、子どもも高齢者も一緒にプレーできる6人制のバレーボールです。ルールは、チーム全員が必ずボール(ふうせん)に触れてから相手コートに返すこと。仲間が触れやすいようにパスをつなぐチームワークを重視するスポーツです。

市内に拠点を置く「日本ふうせんバレーボール協会」は、国内外で競技の普及に努めるなどの功績が称えられ、令和3年に「厚生労働大臣表彰」を受賞しました。



中学生になっても、 ふうせんバレーボールを続けたい

1年前、お母さんに「チームワークが身に付くスポーツだから」と勧められて始めました。月2回、障害者スポーツセンターで楽しく練習をしています。僕の主な役割は、アタッカーにパスを回すセッター。打ちやすいボールとなるよう、アタッカーの人と息を合わせるトレーニングに打ち込んでいます。最近、初めて試合に出場して、勝つ喜びも負ける悔しさも経験できました。今の目標は、もっと練習して勝率を上げることで、中学生になっても続けたいと思っています。



小倉中央小学校
井上 怜吾さん

誰が得点を決めても、同じくらいうれしい

生まれつき障害のある息子と一緒に楽しめるスポーツを探していて、ふうせんバレーボールに出会いました。それ以来30年近く、月2回の練習日に汗を流すことが、私と息子の生活の一部になっています。コートでは、障害や年齢に関係なく、全員が力を合わせ同じボールを追うチームメイト。息子は自分がサーブを決めた時もうれしそうですが、チームメイトが得点を決めた時は、それ以上にうれしそうです。四肢が動かないはずの息子が体を動かそうと懸命に力を振り絞る姿を見るたびに、このスポーツに出合っただけよかったと思います。



西本 慎さん(左)・
澄雄さん(右)

市長からのメッセージ

市内では、年間を通じてさまざまなパラスポーツイベントが開催されています。全国ふうせんバレーボール大会は、平成2(1990)年以降、市内で開催され、毎回500人の選手と200人のボランティアスタッフが大会を盛り上げています。また、車いすバスケットボールは、平成14(2002)年にアジアで初めて世界選手権大会が市内で開かれ、翌年からは「北九州チャンピオンズカップ」として開催されています。昨年の「東京2020パラリンピック競技大会」男子車いすバスケットボールで銀メダルに輝いた選手全員がこの大会の経験者であることは、とても誇らしいことでした。

市では、これからもパラスポーツの振興を支えるとともに、障害の有無にかかわらず、お互いに尊重し合う、誰もが住みたい、住み続けたい「共生のまちづくり」に取り組んでまいります。

北九州市長 北橋健治

特集は2ページに
続きます